

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語】

### 1. 対象

授業を実施する本校1年生は、まだ幼さが残る生徒が多いが、授業に前向きな姿勢で取り組むことができる。板書をノートに書く活動は積極的に行えるが、自らの考えを記述する場面においてはなかなか書き出せない生徒や、一行書いて手が止まってしまう生徒が一定数存在する。また、言葉を豊かに表現したり、詳しく表現したりする場面では、簡潔にしてしまうことで時間やノートの余白をもて余してしまう生徒の姿が見られる。これまでの学習において、登場人物の心情や、場面の変化に注意して読むことや、段落の役割やまとまりに注目して読むことを学んだ。本単元を学習することで、自分の思いや考えを豊かに表現したり、相手に伝えるために言葉を模索したりしていく姿勢を養いたい。さらに、散文では表現することが苦手な生徒でも、詩の創作をすることで、自分の思いを表出することの良さを味わわせたい。

2. 単元名「豊かな表現に親しむ ～詩の世界～」(全5時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し、使っている。
思考力, 判断力, 表現力等	「書くこと」において、読み手の立場のことを考えながら、語句の用法や叙述の仕方を確かめ、自分の思いが表現される工夫を凝らした詩を創作している。
学びに向かう力, 人間性等	粘り強く自分の思いを表現できる言葉を模索し、授業で身に付けた表現技法を効果的に使いながら、詩を創作しようとしている。

### 4. 授業展開【 本時 ・ 単元 】

#### 解決したい課題や問い

・ 私の「心のゆれ」を読み手に届けるためには、どのような工夫を凝らした詩にすればいいだろう。

考えるための材料A	考えるための材料B
<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な詩の作品(20篇)</li> <li>(くどうなおこ、中原中也、山村暮鳥、海達公子、八木重吉、島崎藤村、北原白秋、草野心平、堀口大樹、三好達治など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書教材</li> <li>【詩の世界】</li> </ul>
想定される活動	想定される活動
<ul style="list-style-type: none"> <li>詩とは自由に書くものであり、その形式に決まりはない。</li> <li>詩には様々な表現の工夫が用いられている。</li> <li>詩を創作する際には、色々な言葉の候補の中から選び抜いて使うことが大切だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩を創作する際には、誰にでも通じるありきたりな表現ばかりではなくて、自分が感じたことを一番表現できる言葉をとことん考えるとよい。</li> <li>詩を読むときには、言葉に込められたものを想像しながら読むことで、筆者からのメッセージを受け取ったり、自分なりの考えを深めたりできる。</li> </ul>

### 対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

3人または4人グループの中で、10分間の意見の出し合いと、5分間のまとめの時間を設定し、グループの中で話し合う。グループでまとめたことは、ホワイトボードに記録させ、写真撮影したものをクラスルームにアップして学級全体で共有する。

A: ガイダンスでやった色々な詩を手掛かりに考えてみよう。

B: あの時の詩には、今思うと様々な表現技法が使われていたんだね。

A: やっぱり表現技法は一つの手がかりだよな。

B: 何があったかな。倒置とかがあったよね。

A: 便覧を使って先生が説明していたから、もう一度確認してみよう。

C: 表現技法以外はないのかな。

D: 教科書に載っていた三つの詩は、あまり表現技法を使っていなかったけれど、良い雰囲気の時だったよね。

B: 表現技法だらけというのもよくない気がするね。なんだか読んでいてしつこい感じがしそうだね。

A: 使えばいいというものでもなさそうだね。ここぞというところで使う感じかな。

C: 教科書の作品は、どちらかという使っている言葉が特徴的だったね。考えさせる言葉を使っている感じかな。

A: わかる。言葉をよく考えることも大事なのだろうね。もうないかな。

D: でも、凝りすぎて伝わらないのでは意味がないと思うよ。

A: そうだね、その加減が難しいけれど、読む人が分かってくれる言葉になっているかということも大切だね。全然違うことを感じ取られてもさみしいしね。

B: それでは、今話し合ったことをホワイトボードにまとめていこう。

### 学習の成果(予想される生徒のあらわれ)

・「心のゆれ」を表現するためには、ありきたりな言葉ではなく、自分にとってこれだと思える言葉を選ばないといけないと思う。ただし、自分が「これだ」と思った言葉を詰め込むわけではなくて、読み手に分かってもらえるかどうか、自分にしか分からない表現になっていないかどうかを考える必要がある。同じような言葉を使うときであっても、強調するために反復や倒置といった表現技法を使うことで、印象を強めたり、良い雰囲気を残したりすることもできるから、効果的に表現技法を使うこともいいと思う。